THE HIROSHIMA JOGAKUIN NEWS
昭和七年六月創刊
廣島女學院報
昭和廿八年十月復刊
第 186 号　2019(平成31)年1月20日
学校法人広島女学院発行
〒732-0063　広島市東区牛田東四丁目 13-1

広島女学院の更なる発展へ

広島女学院理事長　中川 日出男

昨年1年の主な行事等を振り返ってみると

4月…学部改組による新しい広島女学院大学がスタート

長年定員割れの原因となっていた学部を改組し新学部体制でスタートした元年であるが、久々に入学生が定員オーバーの状態で迎えることができた。経営の安定化への道筋がみえた。

7月…7月豪雨により大学施設・設備が被災

豪雨により裏山が崩れ、クックホール等大学内の施設・設備が大きな被害を受けた。人的被害がなかったのがせめてもの救いであった。早期の復旧を行っているが、完全復旧までにはもう少し時間がかかりそう。

9月…大学基準協会による実地調査

7年ぶりの実地調査であるが、社会連携・社会貢献など良い評価を受けた分野がある反面、財務内容は厳しい指摘を受けた。今後更に財務の改善努力をしなければならない。

10月…正門周辺の工事が完了

大学開学以来の正門周辺の工事を行った。歩車分離のための安全対策と景観対策工事を行ったが、従前と比べ、美しい正門の風景となった。

11月…サーロー節子さんの講演会開催

広島女学院大学主催による講演会は1000名を超える参加者のもと成功裏に終えることができた。卒業生でもあるサーロー節子さんがノーベル平和賞の受賞スピーチで有名になったことも相俟って、講演の状況が各メディアの全国ニュースで流れた。広島女学院の名前を全国に知らしめることとなった。

12月…人文館のトイレ改修工事完了

ヒノハラホールに続き、人文館のトイレを美しく機能的な洋式トイレに改修した。新築以来の大規模工事であるが、教職員・学生に人気を博している。

こうして振り返ってみると、昨年は過去にないような出来事、開学以来の行事、数年ぶりの案件などが起こり、歴史・記録に残る1年であったと言える。

さて、今年は広島女学院創立133年、大学の開学70周年を迎える年である。昨年からの好循環の流れを加速させ、広島女学院再生飛躍の起点であったと記録され、歴史に残る年にしたいものだと思っている。

教職員の皆さんの更なる御奮闘をお願いしたい。

新しく整備された正門の風景

大学 University

サーロー節子氏特別講演会を終えて

２０１８年11月23日に広島女学院大学砂本記念講堂で開催されましたサーロー節子氏特別講演会に、１０００人を超える出席者を県内外からお迎えし、「キリスト教主義女子教育と平和～私が受け取ったもの、あなたに託したいもの～」というテーマのもと、大盛況のうちに講演会を終えることが出来ました。

本学の妻木陽子准教授の司会のもと、学長挨拶では、「平和を実現するものは幸いである」とのキリストの山上の説教を引用し、「私達一人ひとりの責任において、民族を超え、国を超えて、平和をつくり出していかねばならない」ことが指摘され、本学の卒業生であるサーロー節子さんこそ生涯をかけて実践された方であると、同時代を生き抜いた同志として思いを込めて紹介させていただきました。

サーローさんは久し振りに広島に戻られ、「美しい広島の街に絶句しました。あまりに信じがたい神秘的な景色でした。被爆後のがれきの山のイメージと重なりあって、異様な思いでした」との感想を述べられた後、次の3点から講演を纏められました。（詳しくは本学のホームページをご参照ください。）

1．本学のキリスト教教育を受けたからこそ

１９４５年８月６日爆心地から1.8キロ離れたところで被爆した様子に触れ、「あきらめるな。光が見えるだろう。光に向かって這っていけ」との軍人さんの叫びに助けられ今日があること、死の淵で沢山の級友が、「主よみもとに近づかん」を歌いながら息絶えていったことに直面して、「愛と行動の人となろう」と決心し、16歳の時に流川教会で洗礼を受けるよう導かれたと証されました。その後アメリカに留学し核兵器廃絶運動を続けるために、広島女学院で犠牲になった３５１名のクラスメイトの名前を書いた布を講演の度に持ち歩き、級友とともに運動を続けて来られたことを壇上で実演しながら語られました。

「本学のキリスト教に立脚した人格教育がなければ、活動は挫折していたかもしれません」という言葉は、創立１３２年を迎えている女学院のぶれてはならない教育の原点を指摘された思いでした。

2．ICANによる反核運動に参加して

サーローさんは、５３２の世界の市民団体からなる連合体であるICAN（核兵器廃絶国際キャンペイン）に加わり、２０１７年３月に核兵器禁止条約交渉会議が国連本部で始まった時も、議場で発言する機会を得ました。「73年前に広島・長崎で虐殺された幾十万の霊も、ここで会場の成り行きを見ています。彼らの死が無駄でなかったと思えるような交渉を」各国代表に強く訴え続けました。そうして２０１７年７月７日、国連本部において、１２２か国の賛成を得て核兵器禁止条約が成立したのです。50か国の署名と批准を獲得してできるだけ早くこの禁止条約を発効させることが私たちの第一の課題ですのに、日本政府がこの条約の批准を拒否していることを痛烈に批判されました。

3．ノーベル平和賞受賞式でスピーチをして

ICANのノーベル平和賞は核兵器廃絶への最高の励ましであると同時に、非人道兵器を抑止力として正当化し禁止条約への参加を拒否する国々への痛烈な批判でもあり、日本はその一つであることを明言され、広島、長崎で亡くなった方々の声なき声を代表してスピーチをしたことを、声を大にして訴えられました。

核兵器禁止条約の第一歩は出来上がったけれど、核廃絶までにはまだ長い行程があります。希望と勇気と粘り強さをもって、目的に向かって働き続けましょうと力強く訴え、講演を閉じられました。会場一杯に広がった鳴り止まぬ拍手は、同席したすべての人がサーローさんの意思を受け継ぐ証であったと思います。

広島女学院大学にとって、１０００人を超えるお客様をお迎えしての講演会は初めての経験でした。教職員が一つになって、来客名簿の準備、会場設定、お客様の誘導など落ち度がないように打ち合わせを行い、何のトラブルもなく成功裡に終えることが出来ましたことに心からの感謝を述べさせていただきます。有難うございました。

（学長　湊　晶子）

「祈りたい、祈れない、だから」

2018年度秋季宗教強調週間 10月15日(月)～19日(金)

今季宗教強調週間は、15日(月)「特別チャペル」での、YMCA地球市民プロジェクト参加者からの報告によって始まった。18日(木)「木曜日チャペル」の沖縄平和学習参加報告とともに、学生たちの意欲的な取り組みに刺激を受けた。

16日(火)・17日(水)には、立教大学チャプレン・宮﨑光先生を特別講師としてお迎えした。宮﨑先生は同大学での優れたお働きに加えて、聖歌・賛美歌作者および研究者として数々の優れた業績によって著名な方である。

中でも、先生が東日本大震災の後に作詞された「祈れないあなたのため」という賛美歌は、未曽有の災害に打たれ、祈れないもどかしさや、祈りが空虚に響く虚しさを覚える者たちに、温かい慰めとなってその心を包み、祈りの支えとなってきた。今回、先生とともに一同で歌うことにより、7月の豪雨災害に直面した者たちにとって、今こそ必要な慰めと励ましを与える歌であることが実感された。

この詞を生み出された先生の音楽性と霊性のルーツは、ご尊父・宮﨑尚志氏にさかのぼる。同氏は牧師を志して立教大学に学ぶも、作曲家として大成し、コカ・コーラのCMソングをはじめとして、生涯に数千曲の作品を残された名匠であり、広島東洋カープ応援歌「それ行けカープ」の作曲者である。この曲は原爆からの復興を支えた球団の応援歌にふさわしく、「祈り」がその原点にあるという。

同氏の臨終の床を囲んだご家族のエピソード、また、その際に生まれた「ここに祈りの家がある」という賛美歌についてのお話から、この紙面では語りつくせない豊かなメッセージをいただいた(ご希望の方は宗教センターにてビデオ視聴可)。

「祈り」のコトバがたとえ虚しく響いても、祈ることは心に刻むことであり、忘れないために祈る、そして人は忘れても神は忘れない、人が祈れないときにキリストが祈りたもう、ということを新たに学んだ二日間であった。

(大学宗教委員長　澤村 雅史)

正門周辺などの施設、設備の整備

構内の安全の確保、利便性や快適性の向上のため、施設・設備の整備を順次進めてきております。今年度は正門周辺の整備と人文館のトイレ改修を実施しました。

正門周辺では、これまで無かった歩道を新たに設置し、歩行者の安全性を高めました。また、これまで道路沿いの樹木が鬱蒼と茂り窮屈なイメージがありましたが、こうした樹木を伐採し、新たに低木を中心にした植栽を行うことにより、正門から図書館、人文館などキャンパスが広く見渡せる、明るく開放的な空間ができました。同時に、大学協力会からクリスマスツリーと電飾の寄贈を頂きまして、正門横に植樹しました。11月26日夕刻に点火礼拝が行われ、正門あたりを美しく、優しく照らしました。

トイレについては、長年、多くの学生から洋式トイレへの変更、パウダーコーナーの設置、ウォシュレット化の希望が出されていたことから、昨年、ヒノハラホールを改修しました。今年度は、講義棟である人文館を改修することとし、8月に工事に着手、年内に完成いたしました。白と木目調を中心としたデザインで、明るく清潔感のあるものとなりました。

今後とも、学生からの要望なども確認しながら、必要な施設・設備の整備を進めていきます。

(事務局長　本廣 賢吾)

同窓生対象生涯教育「修了証プログラム」

広島女学院大学では「女性の一生を支える」をコンセプトにエンパワーメントセンターを設置し、卒業生が大学に戻ってリフレッシュできる場を作るとともに、「卒業生の集い」をはじめ「転職・再就職セミナー」、キャリアカウンセリング等の実施を通して卒業生の活躍をサポートしています。

2018年4月に2学部5学科に再編し、全学部学科共通の「基礎科目」と「ライフキャリア科目」(新設)を充実させ、続く専門科目からなる各学科の学びを積み上げることにより、女性の一生涯をより豊かにする教育を目指しました。例えば日本文化を学ぶ学生が食や健康を、栄養学を学ぶ学生が英語力を培うことも可能です。

この「ライフキャリア教育」を土台にしたカリキュラム編成を受け、新しい修了証プログラムをスタートさせます。現役の大学生と共にライフキャリア科目及び各学科の学びのエッセンスともいえる授業を体系的に学べるシステムです。設定されたコース内の5科目10単位以上を履修し終えた場合、大学から「修了証」を授与します。もちろん興味のある科目を自由に選択しても構いません。

もう一度キャンパスに戻って勉強してみませんか。(詳細はパンフレットをご覧ください)

(エンパワーメントセンター)

福田道宏准教授の著書「画家の旅」出版

再興院展の画家中庭煖華(1901～78)の1960年代の日記をもとに創造の軌跡と画家にとっての旅と日常を紹介します。

(生活デザイン学科　福田 道宏)

中学・高校

Junior high school & High school

中3長崎研修旅行

10月3日(水)～5日(金)の3日間、中3生徒たちは長崎研修旅行に行ってきました。旅行のテーマももちろん「ABC(当たり前のことをばかにしないでちゃんとやる)」。そのため教員もできるだけ見守るというスタンスでのぞむことにしました。

初日は広島駅で出発式を行った後、新幹線とバスで長崎へ向かいました。長い移動時間でしたが、クラスメートとの楽しい時間を過ごせたようで、あっという間に長崎に到着しました。到着後は平和公園周辺で最初の班別研修を行い、それからホテルへ移動し、語り部の方から被爆体験を聞かせてもらいました。

二日目は、落下中心地で平和セレモニーを行った後、班別研修を実施しました。どの班も事前に作成したプランにしたがって、午前中は「平和」に関する場所を、午後は主に「歴史・文化」に関する場所を訪れました。五時間にわたる班別研修でしたが、自分たちで考えて行動するという貴重な経験をすることができました。

最終日の三日目は待ちに待ったハウステンボスでした。少しでも長い時間を過ごそうと、早めに集合・整列するなど自分たちで工夫していたのが印象的でした。開園後には、アトラクションを楽しんだり、お土産を買ったりと思い思いに楽しんでいる姿が見られました。

この三日間で、生徒たちの成長を感じさせる場面に何度も直面しました。時間を守る、人の話をきちんと聞く、周囲に適切な配慮をするといった社会に出てからも大事なことを、当然のようにこなす姿に、学年会一同本当に感動させられました。この研修旅行での経験をこれからの学校生活にもいかしていってほしいと思います。

(中3学年会　宇津 剛)

中高合同文化祭

今年度の文化祭テーマは、「紬」でした。紬は日本古来の丈夫な絹織物の一種で、絹織物でありながら素朴な風合いをもつという特徴があります。このテーマに合わせて、より合わせた紬糸を織物にするように、クラスや部活動、中高の生徒一人ひとりが力を合わせ、自分達らしい文化祭を作り上げることができました。

高校の開会礼拝では、生徒全員で大きな掛け声を出して、みんなの気持ちを一つにして始まりました。高校では、HR発表の数を増やし、中学では、昨年度より大きなペットボトルキャップアートを作成しました。今年は、中学の五人委員会を中心に、デザインから完成まで中学生が力を合わせて作り上げました。また、中3の作品展示をする教室では、生徒が作品の案内をしたり、来てくださった方に投票してもらったりと、新しく参加型の発表になりました。文化祭を終えて、HRをはじめ、部活動など各団体の団結力を深めることができたと思います。ご協力いただいたPTAの方々、事務・技術職員の方々、ありがとうございました。

今年度も、生徒はもちろん、来てくださった全ての方々に楽しんでいただけたのではないかと思います。来年の文化祭にも是非いらして下さい！

(高校生徒会執行委員長　河田 千佳)

当日の模擬店の様子

中学展示の様子(中３の作品展示)

サーロー節子さん　中学高校特別礼拝

11月24日に、サーロー節子さんを中学高校に迎え、特別礼拝と対話集会をもたせていただきました。礼拝の讃美歌は、320番を選ばれました。「73年前の8月6日、被爆した同級生がこの讃美歌を歌いながら、一人また一人と亡くなっていったと親友から聞きました。今生きている私たちが、その時亡くなった方たちがいることの意味をどう考えますか。」と訴えられました。サーロー節子さん自身が、怒り、不安、疑いの中から、良く生きるとは、恵まれるとはという問いに向き合い、確固たる信念をつくり上げ歩まれてきたことが伝わりました。「自分の考えをもつために真剣に生きる。そして確信した考えを周りの人に話す。よく聴いてよく考える。自分の幸せのみを追求するのでなく、平和、安全、公正な社会をつくりだす責任がある。沈黙することでは、それは実現しない。力強く、粘り強く、勇気をもって！」とメッセージをいただきました。

その後、慰霊碑にお花をささげられました。同級生のお名前を読み、「一人ひとりを覚えています。私も頑張ってきましたよ。」と呼びかけられました。

午後には、中高校生との対話集会をもたせていただきました。本校の歴史の中で築かれた教育の柱、平和をつくりだす学びで取り組んでいることを伝えました。その一つ一つの活動に感動され、生徒が大切にしている思いに触れられ、母校での出会いを「とてもうれしい」と感謝してくださいました。

(校長　渡辺 信一)

キリスト教強調週間(11月12～17日)

主題「天國無双」、主題聖句「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書13章32～33節)、講師に松谷信司先生をお迎えしました。

松谷先生は、テレビ朝日の報道編集、キリスト教系小学校教員経験を経て、「キリスト新聞社」に入社し、現在代表取締役社長として、現代の若者やキリスト教に縁のない人たちにキリスト教を伝える様々な試みをされています。著書『キリスト教のリアル』(ポプラ社)、編著『宗教改革2.0へ』(ころから)など。また、聖書を題材にしたゲームやアプリを制作し、インターネットで話題になっています。講演では、信者が1%しかいない日本でも、意外と身近なところにキリスト教が関連していること、「コワイ、キビシイ、クライ」といったイメージを持たれがちな宗教も「視点を変えるとオモシロイ」。〝ガチクリ〟(洗礼を受けたクリスチャン)でなくても、〝ユルクリ〟(キリスト教学校卒業生のように、ゆるやかにキリスト教とつながっている人)の存在意義は大きいことなどを楽しく語って下さいました。

学年別活動では、社会のさまざまな分野で働く講師の先生との出会いや「隣人と共に生きる」具体的実践活動の時間を持ちました。

閉会礼拝で発表した各学年代表の感想の一部を次に紹介します。

(宗教教育委員会)

「一粒のからし種」

高2　原千晴

主題講演では、宗教という日本人に馴染みのないものが、いかに文化として日本に根付いているかを知りました。

私がキリスト教教育の利点だと考えることの一つは、サブカルチャーの中に宗教が取り入れられていると気づくことができる点です。もしキリスト教や聖書について学んでいなければ、作中の設定や背景が宗教由来であることを知らず、そのまま素通りしていたはずです。宗教をサブカルチャーにうまく取り入れたように、一見難しそうに見える問題も、親しみやすいものと融合することで敷居が低くなり、より多くの人に目を向けられるようになります。それはグループ別活動で学んだ手話でも同様でした。ちゃんと学ばなければいけないという緊張を一旦捨てて楽しくその事柄に触れることで、新しい知識や経験を身につけることができるのです。

また講演中、「全ての人が愛される世界」という天国の理想像に対して、松谷先生は「天国だけでなくこの社会でも実現できるように努めなければならない」と仰いました。多数派の中にいると、少数者に対する差別意識はなくとも、自分が普通と思いこみ、心ない行動を起こしてしまうことがあります。しかしそれでは全ての人が愛される世界ではありません。「学ぶ」という堅い言葉でなくても「知っている」「見たことがある」といった入りやすいところから始め、知らないからできなかったことを減らしていくべきだと感じました。

松谷先生から見せて頂いた小さいからし種は、ちゃんと育てることで枝葉を広げ、動物が留まれるような木に成長します。私達の学びや知識も、小さなきっかけから始まりました。私達がやるべきことは、徐々にその内容を深め、最後には誰かを助けることのできる大きなものにすることなのです。

中高クリスマス行事

アドベントに入ると讃美歌コンクールの練習の歌声が校内に流れ出します。当日は美しいハーモニーに乗せ、クリスマスのメッセージの豊かさを分かち合いました。中学クリスマス礼拝では、その課題曲を学年ごとに合唱し、合唱部、YWCA部(ハンドベル)、放送部(聖書朗読)などと共に神様に捧げました。

高校クリスマス礼拝では、『マギーの贈り物』(演劇部)が上演されました。一人きりのクリスマスを迎えるはずだったマギーは養護施設の兄弟を一晩預かることになります。粗暴な二人の言動に振り回されながらも、宿屋に泊めてもらえず馬小屋で生まれたイエスに共感する彼らの寂しさに気付き、「生まれてきてくれてありがとう」と語り、互いに見えない「贈り物」を受け取ります。最後は全校生徒のハレルヤ合唱がゲーンスホールいっぱいに響き渡りました。

夜の女学院クリスマスでは、高校礼拝のプログラムに中学YWCA部のハンドベル、高校生有志による聖歌隊を加え、保護者、卒業生、一般市民の方々と共にクリスマスをお祝いしました。

大月純子先生(中高聖書科講師・日本基督教団牧師)からは「神様は、ありのままのあなたが大切な存在だよと私たちに伝えるために、イエス様を下さった。神様から贈られた最高の宝物である自分の命に誇りを持って生きていこう」というメッセージをいただきました。

(宗教教育委員会)

生徒の活躍

◎3年1組　奥西 桜子
高円宮杯第70回
全日本中学校英語弁論大会中央大会　出場

◎3年5組　大谷 理麗花
平成30年度全国中学校体育大会
第39回全国中学校スケート大会(2月)出場

幼稚園 Kindergarten

キリスト教保育の時間

11月、大学の「キリスト教の時間」に招かれ、賛美礼拝を捧げました。「礼拝」として参加したはずの子どもたちでしたが、馴染みのある調べに手拍子が起こり、予想しない姿に戸惑いもしましたが、止めることも難しく、流れに任せながら見守るひとコマもありました。大学のお姉さんたちの優しい歌声に心を動かしたからなのでしょうね。児童教育学科1年生のみなさん、素敵な時間をありがとうございました。

ところで、幼稚園には「キリスト教の時間」なるプログラムはありません。子どもたちが生活するすべてが「キリスト教保育」です。神様の創造された自然とふれあうこと、ありのままを受容しみんなちがってみんないいこと、一人ひとりが自分らしく育つこと、ちがいを乗り越えてつながり合うこと、平和をつくりだす教育の第一歩を丁寧に、大切に取り組みたいと私たちは願っています。

（幼稚園　園長　高田憲治）

アドベントオルガンコンサート

11月19日、落ち葉が舞い、どんぐりが転がる大学キャンパスの道を下りて、子どもたちが向かったのはゲーンスチャペル。出迎えてくれたのは世界一大きな楽器・パイプオルガンと玉理照子さん（広島流川教会オルガニスト・日本基督教団讃美歌委員会委員・広島女学院大学オルガニスト）。初めての出会いに胸躍らせ、800本余りの大小のパイプが奏でる音色に耳を傾け、一緒に歌も唄い、心の温まる演奏に包まれ、アドベントを迎える良き準備ができました。

（幼稚園　坪山菜津子）

クリスマス

幼稚園で初めてのアドベントを迎えるまでは「クリスマスはサンタさんが来る日」と思っていた子どもたち。アドベントの日々を過ごすうちに「神様が私たちにイエス様をくださった嬉しい日」という本当の意味を知り、嬉しさを先生や友だちと分かち合い、おうちの人も喜ばせようと贈り物を作るなどして、クリスマスをより楽しみに待つようになりました。そして年長組の子どもたちは、自分たちがこれまで感じてきた喜びを、今度は多くの人に伝えようと、クリスマス礼拝でページェントを演じました。聖歌隊の年少年中組の子どもたちの歌声も加わり、会場全体の思いが一つとなって、厳かな中にも喜びあふれる温かなクリスマス礼拝となりました。

（幼稚園　有里亜友美）

アドベントクランツやクリブを飾ったよ。クリスマスが待ち遠しいね。

やどやをさがして　トントントン

ファミリーデイ

ウラジロでバッタをつくろう！

12月は菊間馨さん（広島フィールドミュージアム）と一緒に、家族でぼうけんの森の自然観察会を楽しみました。森の中でターザンロープやブランコ、ロープをつたって遊んだり、蔓や木の実を使っての制作やリースづくりも盛り上がりました。菊間さんは普段から園庭や森で『森の達人』として子どもたちから親しまれており、様々な動植物の生態や遊びを教えてくださいます。教職員にとっても専門知識を得る機会となり日々の保育を豊かにしてくださっています。

（幼稚園　久保木裕子）

事務局 Secretariat

2018年度 広島女学院全学院研修会報告

2018年度広島女学院全学院研修会の実行委員会は、古重歌織主事(幼稚園)、増原康人教諭(中高)、永野晴康准教授(大学)、前田美和子准教授(大学)、宇都宮奈月事務職員(大学)、内海香苗事務職員(大学)の6名で発足しました。

湊院長による研修会全体の方向性を確認し、本廣事務局長、増田事務局次長兼総務課長との意見交換を踏まえ、今年度の研修会の準備を行いました。

大学においては、本年度より学部の改組が実施されています。幼稚園、中高を含めて、新たに生まれ変わる広島女学院という決意のもと、各校部より、これまでの変革への努力と実り始めた成果について報告を行っていただくことになりました。

研修会は、本学院の創立記念日である10月1日(月)午後1時から3時に開催され、「創立132周年を迎えて」というテーマのもと、教職員173名の参加となりました。

第1部は、大学のヒノハラホール5階アセンブリーホールにおいて行われ、大学の澤村宗教委員長による開会礼拝に始まり(聖書朗読「コリントの信徒への手紙Ⅰ第3章1～17節」)、中川日出男理事長による開会の挨拶が行われました。湊晶子院長の「広島女学院の現況とこれから」という講演では、厳しい大学経営状況の下にありながらも、広島県で唯一のプロテスタントの女子大学としての使命、学院全体としてのキリスト教女子教育のメッカの役割を果たしていくことの意義が述べられました。その後、「大学の現況報告」(村上和保大学副学長)、「中高の現況報告」(渡辺信一中高校長)、「幼稚園の現況報告」(高田憲治幼稚園園長)と題し、各校部のこの数年の取組、今後の方向性につき報告がありました。

第2部は、会場をヒノハラホール3階のカフェテリアに移し、お茶の会を開催しました。前半は、普段なかなかお話しできない異なる校部の教職員の方々との交流を含む、和やかな歓談の機会となりました。後半は、古重歌織主事(幼稚園)の演奏により、讃美歌294番「信頼」、童謡「赤とんぼ」を、森保尚美准教授(大学)の演奏により、童謡「ふるさと」を合唱し、学院全体に澄み渡る歌声が響きました。会にあわせて、湊院長の論文の集大成となる『初代教会と現代』(湊晶子著、㈱ヨベル)を、湊院長自ら全教職員へ贈呈いただきました。委員一同、全学院研修会における教職員の方々のご協力に感謝申し上げます。

(広島女学院全学院研修会実行委員長　永野晴康)

研修会の様子

交流会の様子

第34回広島女学院クリスマスコンサート・メサイア

今年もメサイアコンサートを無事終了できたことに星野先生をはじめ参加者の皆様、運営に関わる皆様、そしてご来場頂きました全ての方々へ心より感謝申し上げます。

今回私は大学クワイヤとして合唱全体を統括し、不安もありましたが、いざ本番が終わると寂しく感じました。練習では合唱団の先輩方のお話を聞いたり、星野先生のご指導中に面白いお話を聞き笑いあったり、思い返せばいつも笑顔で過ごせた時間でした。

本番では練習の成果が出せるよう、注意点をメモした楽譜を横目に、精一杯歌えました。特に、ハレルヤコーラスでは観客の方々も一緒に歌い、ホール全体が一体となった光景と星野先生の熱の入った指揮を見て、自然と涙が溢れ落ちました。背後から聞こえる力強い男性パートに支えられ、女性の美しいメロディーを聞きながら私も声を発し、美しい音楽を創り上げる一員となれたことに幸せを感じました。

コンサートが終わると、参加者の方々より「ありがとう」というお言葉を頂き、笑顔で帰られている姿を見て、このメサイアに少しでも貢献できたことを嬉しく思いました。また来年皆さんとお会きできることを楽しみに、そして数年後、数十年後とこの素敵な時間が続いていくことを心より願っております。

(クワイヤ　中川美佑)

同窓会からのお知らせ

2019 ホームカミングデー

テーマ／きっと忘れない一日に

日　時／2019年4月20日(土)
10:30～13:30

場　所／リーガロイヤルホテル広島

会　費／8,000円

2019ホームカミングデー
実行委員会(当番学年)

高校19　短大18　文英1　文日1
高校29　短大28　文英11　文日11
高校41　短大40　文英23　文日23

お問い合わせ／同窓会事務局
TEL・FAX 082-221-1059

会議報告

10月定期評議員会

2018年10月20日10時から開催。

【諮問事項】

2018年度事業計画の執行状況について、7月の豪雨災害を教訓にいざという時の備えをすることや女学院を出て社会で活躍している方の力を借りることが大切であること等の意見や要望が出された後了承。

次に、補正予算案について、質疑応答の後承認。

【報告事項】

学事報告。

第167回理事会

2018年10月26日14時から開催。

【審議事項】

2018年度事業計画の執行状況について、他校との差別化、ブランド力の維持・回復、20～30年先を見据えた人材育成、女学院全体の視点で考え、常に危機感を持っておくことの重要性等に関する意見や要望が出された後了承。

次に、補正予算案について決定。

【報告事項】

学事報告、次期院長・園長候補選考委員会の理事委員、大学教員の採用。

第168回理事会

2018年11月30日14時から開催。

【審議事項】

大学学則の変更（改組に伴う科目名の読み替え等）及び幼稚園園則の変更（実態を踏まえた収容定員の変更等）について、質疑応答の後決定。

次に、資産処分（コープ野村上幟町304号室）について、質疑応答の後決定。

【報告事項】

学事報告、2019年度予算編成方針、次期院長・園長候補選考委員会の職員委員、裁判の状況。

教職員動静

9月16日～11月30日受付分

結婚

市川　知美
（人間生活学部
管理栄養学科　准教授）
濱田と改姓　2018・11・4

召天

足立　鹿之助 様
（足立直子 人文学部
日本文化学科准教授ご尊父）
2018・9・5

宇根　幸子 様
（宇根治 大学総合学生支援センター学生課長ご母堂）
2018・10・4

横田　泰 様
（阿部享子 大学事務局秘書・広報課主任ご尊父）
2018・11・18

小山　忠相 様
（小山雅之中高教諭ご尊父、小山優子中高養護教諭ご岳父）
2018・11・18

日誌抄

10・1(月) 創立記念日
10・3(水) 大学・大学院秋季卒業礼拝・卒業証書学位記授与式
10・4(木) 事務協議会
10・6(土) 幼稚園運動会
10・9(火)～11(木) 公認会計士監査
10・11(木) 経営会議
10・20(土) 定期評議員会
10・26(金) 理事会
11・1(木) 事務協議会
11・3(土・祝) 中高文化祭
11・8(木) 経営会議
11・17(土)、11・18(日) 大学あやめ祭
11・30(金) 理事会
12・6(木) 事務協議会
12・13(木) 経営会議
12・15(土) 幼稚園クリスマス礼拝
12・16(日) 大学クリスマスオープンキャンパス
12・18(火) 大学クリスマス音楽礼拝
12・19(水) 中高終業日、クリスマス礼拝
12・19(水)、12・20(木) 監査法人による会計監査
12・20(木) 幼稚園終園日
12・23(日・祝) 第34回クリスマスコンサートメサイア
12・24(月・祝) 同園会（卒園生の集まり）

寄附

11月30日受付分まで
（敬称略・順不同）

平成30年7月豪雨見舞金
219,860円
一般社団法人キリスト教学校教育同盟

100,000円
公益財団法人大学基準協会
キリスト教会 広島災害対策室

20,000円
広島女学院同窓会
中部ブロック

広島女学院のために
10,000円
田村 興造

広島女学院・広島女学院大学のため
10,000円
花田 卓

広島女学院大学の研究や活動支援として
30,000,000円
人間科学研究所

広島女学院大学のために
500,000円
株式会社アボアエンジニアリング

100,000円
Setsuko Thurlow

AED(自動体外式除細動器)2セット補助(半額分)として
240,000円
広島女学院大学協力会

学生教育のため
21,000円
元廣 優子

ゲーンスチャペル充実のために
10,000円
アンサンブルアイリス

大学教育充実のため
4,000円
森永 裕子

中高教育充実のため
20,000円
甘川 加緒理　高梨 弘
中村 紀子　福岡 美香
森永 裕子　吉田 絵理子
吉田 祥子

中高複合機購入のため
20,000円
安宅 智恵　岡﨑 博美
川鍋 元広　工藤 敬子
塚本 有香　那須 泰
野中 理恵　山縣 泉

2018年度科研費による購入パソコン surface GO
ポール スパイサー

掛軸
小林 享子

創立130周年記念募金

100,000円
匿名1名

30,000円
河瀬 成穂　後藤 慧
近間 美佐子

10,000円
石村 淑江　伊藤 由美
仁科 和子　藤田 英治
正木 由紀子　松永 捺希
山口 君枝　山田 百合子
六角 和子　匿名1名
広島女学院同窓会岡山支部
広島女学院同窓会福山地区

5,000円
水谷　五百子

※記念募金事業A
113,740円
女学院高校14期生同期会

30,000円
匿名1名

10,000円
山﨑 光久　吉野 しのぶ

※募金事業
A奨学金制度の充実

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

新しいこの年も、いつも見守ってくださる神様の存在や広島女学院に繋がる多くの方々を覚えながら日々努めて参ろうと思います。

皆様にとって神様の恵みと共にある豊かな一年となりますように。

（中高　寺本恵理子）